

令和4年度

神奈川県私立幼稚園連合会

新規採用教員研修会

テーマ

「新任としての1年を振り返って」

～子どもに寄り添う保育者の役割～

玉川大学 若月芳浩

本日の研修内容

- 1年の保育を振り返って、自身の課題の明確化と次年度の方角性について
- 子どもが楽しいと感ぢられる時
- 先生の対応の方角性
- 保護者の対応について
- 俯瞰図 E5- I 指導、援助、見守り等の実践

よくぞ今日まで頑張ってきました

- 私の1年目は辛かった～
- お休みが楽しみでした～
- 友達に会うことでストレスを解消していました
- 分からないことが分からなくて何を聞いていかかわかりませんでした～
- 先輩の保育室をいつものぞいていました
- 保護者との信頼形成に苦労がありました
- 同僚の先生の思いがつかめませんでした

どのように解消すれば 良いのでしょうか

- 不安な気持ちや考えていることを言葉に出すようにしていました
- クラスでの子どもとのかかわりはとても楽しかった記憶があります
- 一番近い人に語ることは意識していました
- 保護者には積極的に語るようにしました
- 自分を応援してくれる人には感謝
- 問題を避けて通らないようにしていました

新しい世界に入って 起きていること

- 学習棄却の連続 アンラーニング
- 新任は新たな学びの連続
- 学生時代に培った学びをベースにしながら新たな学びを自分の中に落とし込む
- 朱に交われれば赤くなる
- 学習棄却をしないと辛くなることもある
- 赤くならないようにすると新しいことが入り辛いこともある
- 苦楽しい時間を過ごすためのヒント

子どもの心・自分の心を大切に

- 分からないことが分からない時
- 閉ざさない → 開く 開けなくなる時がある
- 小さなプライドは捨てて、1年目は自分をオープンにして恥ずかしいなどの思いは捨てた方が楽
- 何でも聞く → 自分で考えて確認する
- 不安と期待の混在
- 誰もがみんな1年目

自分だけで抱え込まない

- 園はチームです
- 問題を抱え込むと危険です
- 困った時には声に出しましょう
- うまく行かない事が当たり前です
- 子どもとの関係は1人1人が見えてきた事と思います
- 課題が見えた時が保育として重要な時期です → **次年度に向けて考える事**
- 焦って問題を解決する姿勢や態度は危険です → **子どもとの関係を振り返る**

ブレイクアウトルームの活用

- Zoom機能でグループを自動で作成します
- 20～25分の時間を設けます
- 自己紹介 園での担当など
- 今日までの振り返り
- 子どものエピソードなど
- 終了後に指名された方数名に語っていただきます ➡ ではスタートします

保育のための心構え

「子どもの心を大切にすること」

- 目に見えない部分が人間にとってはとても重要
- **心**は目に見えないが、人間の根幹を左右する最も重要な部分（本来は脳内のこと）
- **心**が大切にされないことが、人間にどれだけのダメージを与えることになるか
- **心**が大切にされることが、人間にとっていかに重要であるか

子どもはなぜ園に来るのか

- 仕方なく来るのか、いやいや来るのか
- 楽しいと思えるために先生方は日々努力
- 楽しいと思えるためには、個々の子どもの思いを理解することが出発になる
- 理解出来ても実現出来ない事もある
- 理解出来るが故に実現出来ないことにジレンマが生じる場合が多い
- では、理解しないのか? → 理解しましょう!

子ども主体の保育 実現の壁①

- 拙い若月の経験から
- クラスをまとめたい
- 子どもにはみ出して欲しくない
- 活動に積極的に参加して欲しい
- クラスから出て行く子どもがいると責任を感じてしまう
- 保護者の対応で苦手な人がいる時に、少し避けたいような気持ちが生まれてしまう
私自身の主体性の欠如

子ども主体の保育 実現の壁②

- 生活習慣を身に付けさせないと
- 保護者からの要望に応えないと
- 園の先生方の目が気になる
- 自分は保育者に向いているのだろうか
- 保護者への発信が楽しく出来ない状況
- 仕事が面白いと思えなくなる時があった



- **子どもの主体性を大切にする事による変化**

子どもの事を信じられるようになった

- 担任として、保育者として「何とかしないと」



- 子どもが園にいる時間は限られている
- 限られた時間を担任や保育者の思い通りにしてくれるのは難しい
- 今、目の前の子どもが何を望んでいるのか
- 今、目の前の子どもに何を望んでいるのか
- このギャップを埋めるのにとっても時間がかかる
1人1人の顔を浮かべてみてください

子どもが凄いと思えなかった

- 大人の支配下 → 子どもは凄い部分がある
- 指導・援助 → 何がしたいのか、どうなりた
いのかを考える時間を大切にする
- 大人の声を届けたい → 子どもの声を聞いて
みよう
- 「この子、とても良く考えている」
- 「そういう考え方もあるんだね」
- 「なるほど、ではやってみよう」
- 子どもの姿が肯定的に見える

子どもが**有能な学び手**に見えてくる

- 有能さが見えてくると信頼度が変化する
- 任せる事と時間が増加
- 結果的に子どもの主体性が発揮されるようになる可能性が高い
- 子どもの声を聞こうとする場面が増加
- 何を考えているのか、感じているのかが見えてくる → 幼児の内面理解へ
- 以上のようなプロセスを歩む事が私にとっては大きな課題であった

人間理解 子ども理解

- 子どもは大人をどのように観ているのか？
- 大人は常に子どもに見られていることを意識することがとても重要ではないか
- 子どもは自分の置かれている場を常に意識し、相手(保育者や親、友達)の内面を常に読み取りながら生きている
- 上記の前提から、子どもを理解することが見えない姿が見える時につながる

人とのかかわりが人を育てる

- 発達を理解する目
- 理解が難しい姿が保育者の人を見る目の幅を広げなければならない状況を作ってくれる
- 障害などの課題がある場合は丁寧にかかることによる理解が重要
- かかわりによる理解は実践知
- 人とのかかわりからの理解
- → 子どもの興味・関心を深く探る目

発達の様子はゆっくりと現れる

- 否定的な目や断定的な目からは発達のが肯定的に見る事が難しくなる可能性が高い
- 乳幼児は対応してくれる保育者の全ての姿から自身の価値を判断する可能性が高い
- 人の瞬時の対応から思いを読み取る
- 肯定的な思いで対応する事によって子どもが本来の姿を現してくれる
- 保育者の思いと発達の関係を理解

子どもに寄り添うとは

- 先生の意図と子どもの思いのズレに気付く事がとても大切
- どちらを優先する事が必要か
- 先生の思いを強く伝えれば子どもの思いは消え去っていく可能性が高い
- 保育の内容を伝え・与えていかなければならない状況 ⇒ 子どもが楽しいと思える状況を整える事が可能になるか

今日までの子どもとの関係を確認

- 担任の先生にとってはクラスの子どもとの関係性を振り返っておきましょう
- 関係が形成され辛かった子どもとのつながりを確認しておきましょう。
- 担任ではなかった先生は、自身の役割が子どもにとってどのような状況になっていたか振り返ってみましょう
- 信頼、つながりは保育の原点になります

寄り添う事が出来なかった場合

- 子どもの内面が見えなかった
 - 何を望んでいるかが見えない
 - 集団が苦手、活動に意欲的に参加してくれない、拒否的な態度 家庭の環境にも要因が
 - 残りの時間で再度寄り添う事に重点を置いてつながりを形成する努力をしておきましょう
 - 次年度の仕事の方向性が決まってきたら、今回の反省を生かしたクラス作りをしていきましょう
- 振り返りの大切さ**

保育の質とケアリング

- 聴く 受容と傾聴 ケアリングの視点から
- ネル・ノディングス
- ケアとは対象を受け容れることであり、ケアのもっとも重要な概念は「受容性」である。受容性とは、
 - 1)自分を消し去り対象と一体になることによって、
 - 2)対象と「共に感じる ; feeling with」つまり、共感するということ

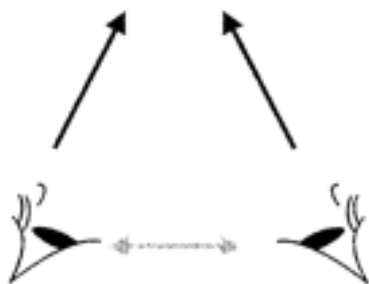
- 3)対象にattention(注意)を示すこと
- 4)そうすることで、対象のneeds(聞いてもらう、気づいてもらうことのneeds)、wants(その人が望む欲求)、interest(その人から出てくる興味、欲求)を聴くことが可能になる。
- 上記実現のためには心を大切にできる大人や保育者の存在
- 如何に自分の位置を安定した状況にするかが育ちのために必要な経験では

共感 育ち合う保育のなかで 佐伯胖編 ミネルヴァ書房 2007

第1章 人間発達の軸としての「共感」

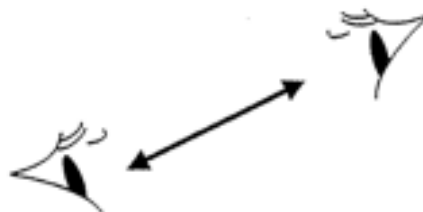
〈横並びのまなざし〉

文化的価値の世界



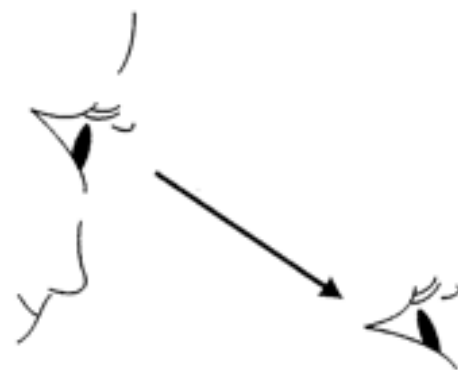
共感される「知」

〈向かい合うまなざし〉



評価される「知」

〈観察するまなざし〉



観察される「知」

図3 子どもを見るまなざし

保育者(教師)の専門性の視点(若月)

- 状況を読み取る力 (幼児・児童の深い理解)
- フィードバックする力 (判断と対応のくり返し)
- 葛藤を乗り越える力 (前に進む方略)
- 対話する力 (Dialogによって育つ)
- 表現する力 (Expressionによって伝える)
- **共感**する力 (Sympathyによって寄り添う)
- エンパワースメント (empowerment) ⇒ 力・権限を与える ⇒ 子ども主体の保育の実現

学びの芽は幼児期が出発

- 興味・関心を大切にした教育・保育
- 探究心を重視した日々の生活と遊び
- 結果として学びが育まれ、主体的な人として生きて行く基礎としての生きる力が育まれる
- 遊んで来なかった子どもの例
- 昨年5月の小学校1年生の姿から
- 主体的に遊ぶ事が如何に重要であるか
- 取り戻しが可能か否かについては今後の研究が必要
早期教育と学びの関係

「みんな一緒に手放す」

奈須正裕氏から 教育改革研究所 2022.3.30

- 個別最適な学びと協働的な学び
- 子どもの学びや授業に関する根源的な問い
- 指導の個別化 学習の個別化 個に応じた指導 ⇒ 個別最適な学び
- 正解(知識)の暗記 同調圧力 ⇒ 脱却
- 多様な子ども一人ひとりが自立した学習者として学び続けていける教育への刷新
- 上記は幼児期の教育と深く関連する

先生方にとっての保護者対応

- 担任の場合は応援団を作る
- 失敗やミスは絶対に繰り返さない
- 報告・連絡・相談を絶やさない
- ミスや過ちは真摯に謝罪の気持ちを持って対応する
- 担任ではない場合は多くの保護者と関係を形成する
- 先輩や同僚の対応から学ぶ

保護者対応で大切なこと

- 傾聴
- 受容
- 共感

保護者対応の基礎・基本

- 他者の考えを受け入れる姿勢
- 多様性に共感する姿勢
- 自分の考えを押しつけない
- 注意などは難しい 園長等に委ねる
- とにかく癒される場になること
- 子育てを協力する関係性の樹立

基本的に気をつけること

- 守秘義務 個人情報保護
- どこまで質問するか 家庭内の事など
- スキル 相づち うなづく 目を見る
- 落ち着いてゆったりと静かな口調
- 感情を受け入れる
- 自己の感情に気付く
- 表情を読む

傾 聴

- 「話し手の方のお話を、そのまま受け止めながら聴くこと」
- アクティブ・リスニング 積極的に聴く
- 相手の表情をよく見ながら、「はい」「うん」「ええ」「そうなんですね」といったあいづちをうちながら、うなずきながら、相手が言った言葉を繰り返したり(オウム返し)、気持ちを汲み取る言葉を伝えながら聴いていきます。

相談者の感情の動き

- 対処困難な衝動・欲求・感情、あるいはその葛藤などを、言語的または非言語的に表現することを通じて意識化、発散することで、症状や問題行動が消失する現象をカタルシス効果という。

カタルシス効果は「心の浄化作用」とも表現される。

相談や子育て支援に必要な 保育者としての力

- ◆ いわゆる説明責任
- ◆ 記録すること
- ◆ 共感する姿勢
- ◆ 語る力
- ◆ 観察する力
- ◆ 瞬時に判断する力
- ◆ 子どもの育ちの見通しを持つこと
- ◆ 今後の対応の方向性を示すこと

仲間として生きていく 同僚性

- 先輩が求めていること
- 自分を開いて欲しい
- 課題は分かち合う
- 出発は挨拶から
- サポートは積極的に求め、依存しすぎない
- 後輩を育てたいと思う先輩の願い
- かかわりの違いを理解する

自分らしく歩むために

- 自身のアイデンティティー、保育観、実践のズレの修正
- 自分の時間を大切にするための仕事上の努力
- 悩みや苦しみの共有
- 難しい子どもや親との出会いは結果として自身の力量へと還元される
- 子どもの世界に対する夢を持ちつつ、自分なりのビジョンを形成する

悩みや苦しみの共有

- 学生時代からの仲間の大切さ
- 新しい職場での仲間作り
- 愚痴はとっても大切
- 大切なお給料を楽しみとして
- 仕事上の困難は永遠に続く
- かかわりの難しい子どもは育ちもしっかりと見える時が来る

この仕事の喜び 夢の実現

- 3年は苦しいことが大半
- 子どもの笑える姿に喜びが生まれる
- 対話 語り 読み取り 記録 共有
- 省察 振り返り 自己課題の発見
- 学び続けること
- 辛い時には辛いと言えること
- 子どものために生きる喜びを

倉橋惣三 「育ての心」より

大正・昭和期の幼児教育の研究実践家

1882.12.28(明治15)～ 1955.4.21(昭和30)

それにしても、育ての心は相手を育てるばかりではない。それによって自分も育てられてゆくのである。我が子を育てて自ら育つ親、子等の心を育てて自らの心も育つ教育者。育ての心は子どものためばかりではない。親と教育者とを育てる心である。